

**公益財団法人宗像ユリックス**  
**平成 31 年度事業計画**

平成 31 年 3 月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	5
2. 平成31年度管理運営の基本方針及び事業について	
(1) 基本方針	6
(2) 事業運営	
① 公1、収1「公園施設等の管理運営事業(貸館事業)」	7～8
② 公1、収1「公園施設等の管理運営事業(施設管理)」	9
③ 収2「利用者サービス事業」	10
④ 公2「文化芸術振興事業(文化事業)」	11～14
⑤ 公2「文化芸術振興事業(文化講座運営事業)」	15
⑥ 公2「文化芸術振興事業(プラネタリウム運営事業)」	16～17
⑦ 公3「健康増進事業(健康増進施設管理運営事業)」	18～19
⑧ 公3「健康増進事業(健康増進企画・体験事業)」	20～21
⑨ 公3「健康増進事業(テニスコート)」	22
(3) 法人運営	
① 組織・運営体制	23
② 財政運営	23

## 平成31年度事業計画

はじめに

昨年、宗像ユリックスは開館30周年を迎えました。文化芸術、スポーツと健康、生涯学習の広域的な交流拠点としての役割を果たしながら、まさに平成という時代に育まれてきた施設だと言えるでしょう。

そして今、宗像ユリックスが歩んできた平成が幕を閉じようとしています。

新たな時代を迎えるなかで、「企業30年説」という気になる言葉があります。30年周期で訪れる景気、流行、経済の波（変化）に対応できなければ、今輝いている企業でさえ存続できなくなるというものです。例えば自動車産業は、ガソリンから電気へ、自動運転、カーシェアリングなど、自動車を取り巻く変化の波に乗り遅れまいと必死です。

もちろん、宗像ユリックスは民間企業ではありませんが、将来の変化を見据えて自らが変わっていく必要があると感じています。

そこで平成31年度については、将来の変化を見据えつつ「快適環境の提供」「感動の提供」という2点を念頭に、宗像ユリックスの運営を進めたいと考えております。

まず、「快適環境の提供」については、開館30年が経過しているため、老朽箇所の補修、施設の保全、美化、植栽管理を計画的に行い、お客様に快適な環境を提供してまいります。その一例として、芝生広場の芝生再生ため、毎年1月から5月までを養生期間とし、その間芝生広場でのランニングを規制いたします。将来、「芝生の絨毯」でお客様を迎えすることができればと思っております。

次に、「感動の提供」についてです。

すでにユリックスでは、施設を飛び出して地域に感動を届けようと「音楽アウトリーチ事業」を展開しております。平成31年度は音楽だけでなく「ダンス活性化事業」「演劇ワークショップ」など、新たな分野の感動を届けていきます。また、にっこり文化講座では、育児中のお母さんでも受講しやすいように託児を充実させ、春休み、夏休み期間の子供向け講座を拡充することで新たな受講生を掘り起こし、驚きと感動の種を撒いていきたいと考えております。更に、そういった事業の変化にもしっかりと対応できるよう組織機構の見直しにも着手いたします。

平成31年度、新たな時代の幕開けとなります。宗像ユリックスでは、その変化の兆しを見落とさぬよう職員一同「快適環境の提供」「感動の提供」に取り組んでまいりますので、これか

らも変わらぬご指導ご協力をお願いいたします。

## (1) 基本方針

公益財団法人宗像ユリックスは、「宗像市文化芸術のまちづくり10年ビジョン」を縦糸、「宗像市文化芸術振興条例」を横糸に、そして市や市民、利用者、各種団体との連携や協働から生じるエネルギーを動力源として、機織り機「宗像ユリックス」を使って、人々の生活に潤いと心に豊かさをもたらす文化芸術の機を織り上げていきます。

### ① 音楽、ダンス、演劇のあふれるまちづくりに向けた活動

地域の元気ある未来づくりに寄与するため、幼少・学生など若い世代に重点をおき、アウトリーチ事業などの子どもの発育段階に資するための鑑賞・体験事業を計画的に実施します。

### ② 文化芸術の振興事業の推進と関係機関との連携

宗像ミアレー音楽祭、アウトリーチ事業、健康増進事業など文化芸術、歴史、科学、スポーツ及びレクリエーションに関する様々な事業をコミュニティ運営協議会や大学など各種団体と連携して実施していきます。

### ③ 健全財政への取り組み

収入改善のため、各施設の利用率、コンサートのチケット販売率の向上を目指すとともに収入に応じた経費の適正化を図ります。また、新しい財源の確保のため、税制優遇制度の活用をしながら、市民、団体、企業からの寄付を募ります。

### ④ 「安全・安心」の宗像ユリックスを目指して

市民アンケートの結果や利用者の意向を踏まえて、これからも利用者が安全に、安心して利用できる施設として、老朽化対策や維持管理のための改善を市と連携して行っていきます。

## (2) 事業運営

### ① 公1、収1「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」

市内はもとより、近隣市の企業や学校などに営業を行い、新たな顧客を創造し、会議室や展示室の利用促進を図る。

また、利用者のニーズを的確に捉えて、新たな施策立案を行なうとともに、施設利用状況の分析を行ない、利用者数や利用料金の増加を目指す。

#### ・条例改正への適切な対応

宗像市が平成31年4月からの新利用料金を、利用者へ遅滞なく案内し、料金改正によるトラブルが無いように努める。

#### ・利用者の利便性向上

「スタジオ当日受付の半額割引」を継続し、人気の企画である「舞台上で気軽にピアノレッスン」の利用推進など、利用者に着目した施策を提供していくとともに、館内レストラン、ワゴン販売店舗との連携を図り、利便性を向上させるなど、新たな施設稼働率向上の施策立案及び実施を目指す。

#### ・職員の接客対応スキル向上

窓口での接客・電話対応レベル向上を目指し、職員の積極的な研修への参加を行なう。

#### ・文化講座事業による施設利用率維持

文化講座事業との連携により利用率向上、館内活性化を目指す。

#### ・貸出備品の精査と改善

利用者からの要望が多い備品の新たな整備や、劣化した備品の改修により、利用者の利便性向上を図る。

#### ・学習室の運営

これまで市が学習室の利用料金を負担していたが、次年度から市の負担が見込めない。学習室廃止も検討したが、利用者の混乱を避けるため、市に代わって宗像ユリックスが一定期間、利用料金を負担し学習室を継続する。今後、利用者負担も視野に入れ運営方法を検討する。

以上の施策を踏まえ、今後も利用者ニーズに沿った施設運営とサービスの導入を続けながら、「利用料金収入」、「施設稼働率」、「利用者数」の3大指標の向上を目指す。

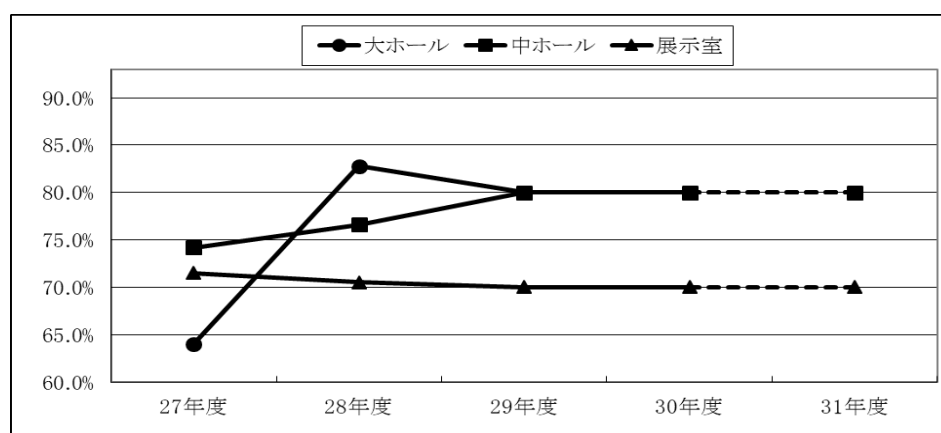
【 数値目標 】

・ 3大施設利用率の推移

※30年度は見込値、31年度は目標値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
3大施設利用率	69.9%	76.6%	80.4%	76.7%	76.7%
大ホール	64.0%	82.8%	88.2%	80.0%	80.0%
中ホール	74.2%	76.6%	82.8%	80.0%	80.0%
展示室	71.5%	70.5%	70.4%	70.0%	70.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



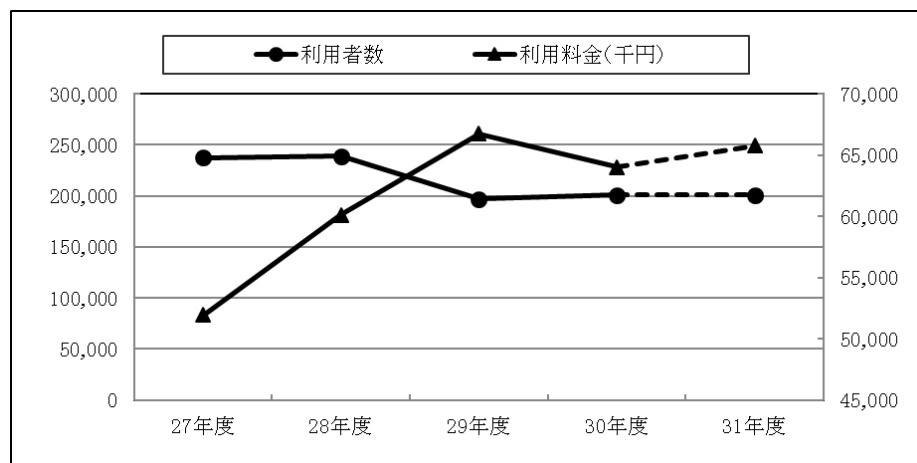
・ 本館利用者数、利用料金の推移

※30年度は見込値、31年度は目標値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	237,290	238,980	197,046	201,000	201,000
対前年比	97.8%	100.7%	82.5%	102.0%	100.0%
利用料金(千円)	51,937	60,102	66,727	64,000	65,770
対前年比	87.9%	115.7%	111.0%	95.9%	102.8%

※利用者数：本館一般施設利用者（図書館を除く）と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



② 公1、収1「公園施設等の管理運営事業(施設管理)」

平成 30 年度の宗像市が実施する保全工事は、12 月 28 日から 1 月 3 日の休館日を利用して受電設備改修工事とエレベーター改修工事が実施された。平成 31 年度は、北ゾーンの空調機器改修およびテニスコート照明の LED 化等の改修工事が予定され、南ゾーンでは屋外照明の LED 化などが予定されている。利用者とのトラブルや事故が起こらないよう、十分な調整を行っていく。

また、財団で行う修繕工事は迅速に対応し、施設の長寿命化やユリックス来場者の事故ゼロを目指す。

公園内の植栽管理は着実に実施されており、継続して今年度も更なるレベルアップを目指していく。特に南ゾーン芝生広場の芝生再生のため、毎年1月から、5月の間はランニングを規制する。ホームページ、公園内放送、看板等により周知を行っている。

安全管理として、各設備の法定点検の徹底及び、例年実施している防災訓練を継続して実施し、不特定多数の来場者をお迎えする施設に勤務する、全職員の意識の維持向上を図っていく。

【 修繕状況 】

※30 年度は見込値

	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
修繕発生件数(件)	122	94	100	105	100
対前年度比	120.8%	77.0%	106.4%	105.0%	95.2%
修繕費(円)	23,279,194	21,168,934	22,050,000	22,150,000	22,150,000
対前年度比	104.8%	90.9%	104.2%	100.5%	100.0%

## 収 2 「利用者サービス事業」

### ・自動販売機設置事業

利用者に飲食物の便宜を供するために公園内の 28 カ所に自動販売機を設置しており、手数料収入として売上額の 15～35%を手数料として徴収している。来館される多数のお客様にご利用いただいている。

定期的な機器の更新や設置場所の見直しを含めた計画の策定を行うことで、恒常的なご利用者へのサービス提供を行い、結果として手数料収入の増加と利用者の利便性の向上を目指す。

### ・物品等販売事業

本館インフォメーション窓口において、傘、切手、収入印紙、テニスボールなどの販売事業を行なっている。一定の需要があるため、継続して販売を行っていく。また、常に新たなサービスを模索し、より一層の利用者サービスの向上と収入の確保に努める。

また、弁当、花の注文代行サービスを積極的にお勧めし、更なる手数料収入の増加を目指していく。併せて、館内レストラン事業者との連携を推進していく。



#### ④ 公2「文化芸術振興事業（文化事業）」

第四期指定管理期間は、「普及・参加・育成型事業重視」の方向性を堅持しつつ、宗像市文化芸術振興条例に定められた理念である「文化芸術に親しめる環境整備」、「文化芸術のための人づくり」、「文化芸術を活かしたまちづくり」の実現に向けた具体的な取り組みを宗像市と協働し推進する。

また、第三期指定管理期間よりスタートした「スマイルキッズプログラム」は、子育て・教育の分野への継続的・体系的な事業展開による地域の活性化と顧客の創造を目的としており一定の成果が感じられるが、今後も一つひとつの事業をブラッシュアップしながら、進化を続けることで、地域の人々の期待に応えていく。

そして、音楽祭をはじめとした様々な事業を通して、地域の人々を取り巻く社会的状況等に関わりなく、人々が潤いを感じ、心豊かな生活を実現する、「新しい広場」としての劇場・音楽堂を目指していく。

##### ・文化芸術に親しめる環境整備

＜コミュニティ・学校との連携による鑑賞機会の創出＞

アウトリーチ事業はコミュニティ・学校との連携協力を図りながらより積極的に推進し、長期的・継続的なプログラムとして展開していく。今年度も、子どもの発育段階に応じたアウトリーチ事業として、「未就園児とその母親」、「幼稚園・保育園児」、「小学生」、「中学生」を対象に実施する。今後も更なる質の向上を図り、経験品質を高めていく。また、鑑賞型事業との関連性を訴求することで、事業効果も高めていく。

そして、昨年度より（一財）地域創造の「公共ホールダンス活性化事業」に取り組んでおり、新たなジャンルでの企画制作能力の向上を図るために継続的に取り組んでいく。

##### ・文化芸術のための人づくり

市民文化活動の活性化を見据えて、文化芸術の担い手の養成や交流を積極的に推進していくため、財団のコーディネーター機能を高める。積極的な外部研修参加や先進地視察の実施などを通して、コーディネーターのスキル向上を図っていく。併せて、アーティストや地域との積極的な交流を通して、必要となる専門性や地域特性の情報について、時間をかけて蓄積していく。

##### ・文化芸術を活かしたまちづくり

＜宗像ミアーレ音楽祭の継続ほか＞

「音楽があふれるまち・宗像」の中心的イベントとして実施している宗像ミアーレ音楽祭を中心として、日常的に市内各所で市民が音楽を親しむことができる環境提供を目指し事業展開を行う。宗像ミアーレ音楽祭はホールコンサートはもちろん、アウトリーチ、市民ステ

ージの評価も高く、この形態を維持していく。そして、本音楽祭の大きな特徴は市民参画であり、市民の祭り、ハレの空間として位置付けて取り組む。

また、「ユリックスジュニアプラス」、「中学校吹奏楽部の学校別の奏法指導・合奏指導」、「ミアール吹奏楽団 500 人コンサート」を主軸として、吹奏楽活性化に向けた事業の流れをつくっていく。

#### <スマイルキッズプログラム>

次代を担う子供たちが文化芸術を体験する場を積極的に提供し、直に触れることで生まれる感動や喜びを通して、豊かな感受性を育むことを目的とする。また、「スマイルキッズプログラム」を実施することで、宗像市が都市ブランドとして目指す、「子どもがすくすく育つまち」・「子どもにやさしいまち」の実現に貢献し、公共ホールとしての役割を果たしていく。

今年度も、毎月 1 回開催している「すくすくコンサート」が好評であり、需要の高さを感じられることから、発展形として「すくすくワンコインコンサート」を定期的で開催し、社会的な制約の多い未就園児とその母親の期待に応えたい。

この多くの事業で構成される「スマイルキッズプログラム」は社会的課題解決を意識した投資事業として位置づけて継続的に実施するとともに、専用広報紙を作成し、事業そのものの認知度を高めていくことで、宗像ユリックスに対してロイヤリティをもつ顧客の育成につなげていく。

#### 【対象事業】

- ・小学校 4 年生芸術文化鑑賞事業
- ・いきいき出前コンサート(幼稚園・保育所・小学校・中学校対象など)
- ・すくすくコンサート(アウトリーチ事業+ホール事業)
- ・むなかた子ども芸術祭
- ・ユリックス ジュニアプラス
- ・ジャジャジャジャーで始まる・わくわく・ドキドキ♥オーケストラ体験 夏・冬
- ・九管ポップス ファミリーコンサート 他

#### ・連携体制

宗像市・教育委員会・各コミュニティ運営協議会等との連携を積極的に行うことで、事業効果をより高めていく。

現在、「いきいき出前コンサート」を積極的に推進することを目的として覚書を締結し、各地区コミュニティ運営協議会と連携した活動を行っている。本年度も連携関係を深めながら、事業を実施していく。同様に、福岡教育大学と連携に関する協定に基づく活動を行っていく。今後も関係機関との連携体制構築も着実にやっていく。

・「ユリックス スマイルクラブ」運営

平成 27 年度より、「ユリックス倶楽部」の内容を見直し、「ユリックス スマイルクラブ」として新たにスタートした会員制度。

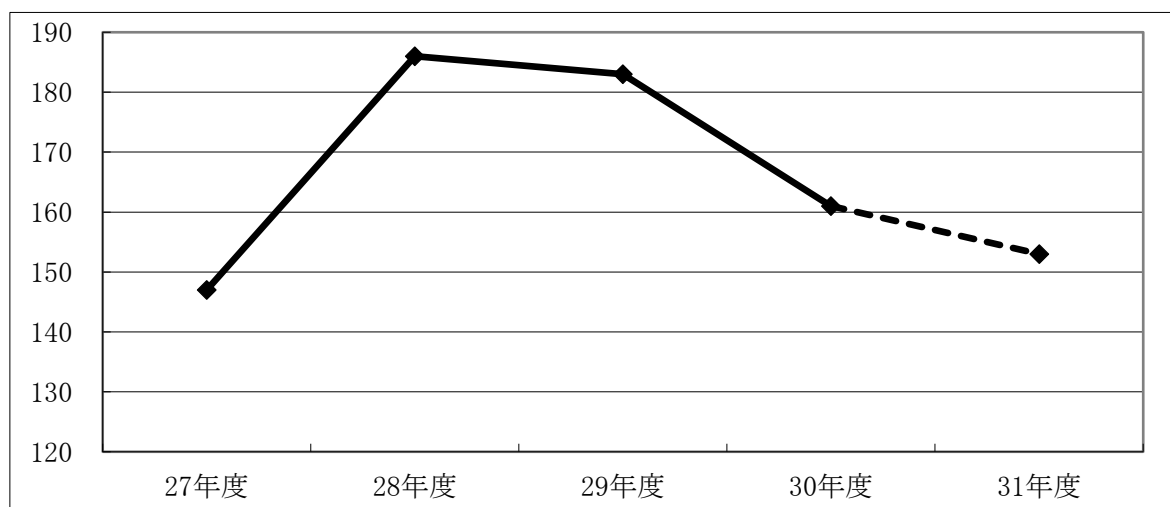
今後は、会員がより使いやすく、よりメリットを享受できる制度確立へ目指す。

【 数値目標 】

事業本数（ジャンル別）

※30 年度は見込値、31 年度は目標値

事業ジャンル	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
音楽（クラシック）	11	11	12	11	13
音楽（クラシック以外）	7	12	13	15	7
映画	12	15	11	12	12
演劇・古典芸能	6	4	4	3	3
美術	3	2	4	2	2
アウトリーチ	96	96	85	84	80
その他	12	46	54	34	36
合計	147	186	183	161	153

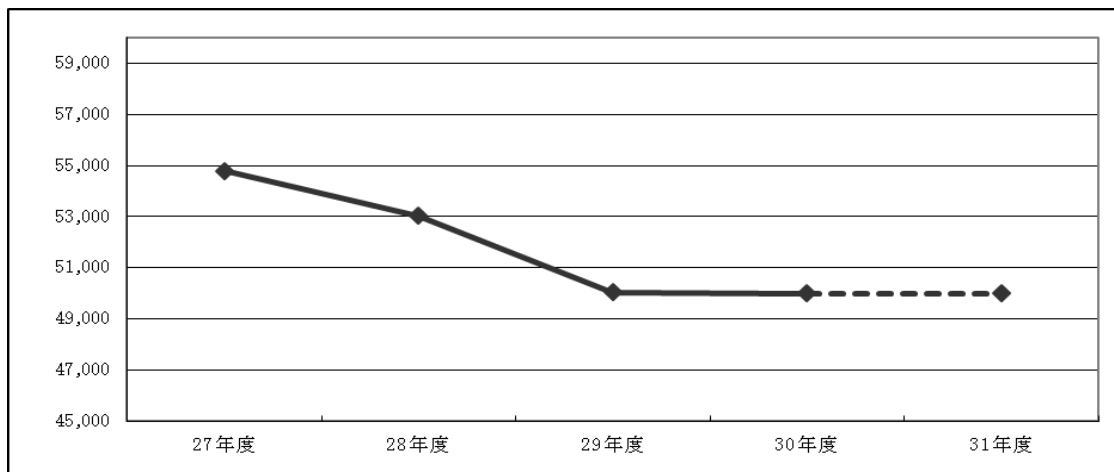


【 数値目標 】

文化事業・入場者数の推移

※30年度は見込値、31年度は目標値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
入場者数	54,798	53,024	50,037	50,000	50,000
対前年比	93.2%	96.8%	94.4%	99.9%	100.0%
対前年人数	△ 3,990	△ 1,774	△ 2,987	△ 37	0



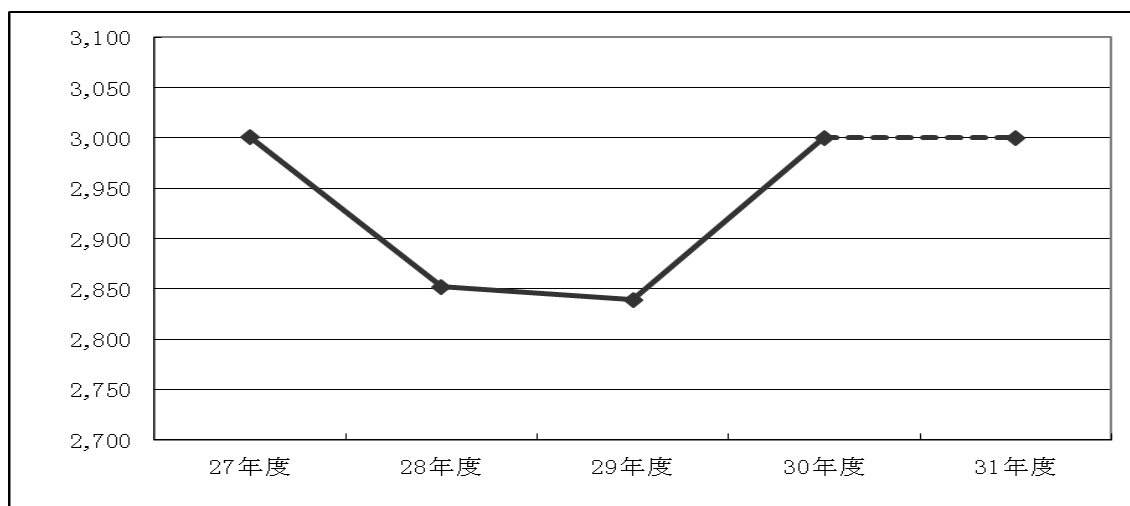
【 数値目標 】

ユリックススマイルクラブ会員数の推移

※30年度は見込値、31年度は目標値

値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
会員数	3,001	2,852	2,839	3,000	3,000
対前年比	92.1%	95.0%	99.5%	105.7%	100.0%
対前年人数	△ 256	△ 149	△ 13	161	0



⑤ 公2 「文化芸術振興事業（文化講座運営事業）」

平成30年度にスタートした「にっこり文化講座」を継続して運営する。1年目は95講座504人の受講生でスタートした。2年目は事業を引き継いだ宗像文化サークル時代からの講座に加え、新たな講座を立ち上げることにより、ラインナップの充実を図り、更なる受講生の増加を目指す。

講座の性格によっては、短期集中講座も積極的に取り入れ、新たな受講生獲得と貸館施設運営にも寄与できるように努める。

- ・人々の心豊かな生活に貢献するために。

「文化芸術を活かしたまちづくり」の取り組みとして、文化講座事業を実施する。生涯学習の面から、時代をリードした新しい地域の文化の創造を目指して、書く、描く、学ぶ、創る、健康・スポーツ、伝統芸能、音楽、一般教養など幼児から高齢者までが学べる各種文化講座を開催する。

- ・継続して取り組んでいくこと

受講料の収受を口座引き落としとし、窓口業務の混雑緩和と利便性向上  
 受講生無料託児サービスを実施し、乳幼児の子育て世代の参加促進  
 知識欲求をくすぐる講演会を季節ごと年4回開催  
 子ども向けの講座の開講

予定事業数 80 講座

目標受講者数 650 人

分類	講座数	分類	講座数
音楽	16	文学歴史	4
舞踊	5	スポーツ	6
絵画	6	健康	8
書道	3	料理	4
手工芸	7	趣味・教養	16
語学	5		

## ⑥ 公2「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」

来場者のニーズに合わせたプログラムの提供や、天体観望会や小学生向けの講座「ほしぞら友の会」の実施、ボランティアによる活動の支援など、地域に根差した活動を継続してきた結果、同規模プラネタリウムとしては全国有数の入場者数を誇っている。今後、入場者数が減少しないよう、さらなる事業の質向上を目指していく。また、現在使用している機器の導入からまもなく10年を迎える。特にコンピュータを中心とした機器の寿命が近づいていることから、今後の安定したプラネタリウム運営のため、機器の更新について計画をしていく。

### ・来場者のニーズに合わせたプログラムの提供

来場者の年齢層など、ターゲットに合わせたプログラム提供を続けてきた。また、専門の解説員による全編生解説を実施していることで、近隣他館との差別化ができ、独自の魅力となっている。そのため、リピート率が安定し、高い水準の入場者数を維持し続けることができている。今後もこれまで通りの番組制作・解説のスタイルを継続していく。

こども向けプログラムでは、来場者がいつ来ても違った内容を楽しめるよう、ショートストーリーなど内容の定期的な変更を行っている。何度も通ってもらえるような仕組み作りを続けて行く。

また、大人を中心に人気となっているリラクゼーションプログラムでは、星空や音楽、映像をゆったりと楽しめる空間作りを続けて行く。今年は、これまでと比べ、より一層の音質の向上を図り、満足度の向上を狙っていく。

おとな向けでは、特に今年は、月着陸50周年など節目になる年であることから、こうした話題を先取りしたテーマのプログラムを実施していく。

### ・団体利用の促進

学校団体の利用は、児童・生徒にとって貴重なプラネタリウム体験の機会である。

そのため、これまで以上に市内学校の利用率向上に努めていきたい。

また、保育園・幼稚園や、放課後等デイサービス（障害を持つ就学児向けの福祉サービス）の利用が安定して継続している。こうした団体による利用にも、今後も柔軟に対応していきたい。

### ・天文普及に関わる事業

天文普及に関する事業として、毎年3～9月の時期に計5回実施している観望会「ほしぞらウォッチング」の他、通年で月1回の小学生対象の講座「ほしぞら友の会」を行っている。これらの天文普及に関する事業を通じて、科学に対して興味・関

心を持ち、正しい科学リテラシーを持つ子どもたちを育み、将来を担う人材育成の場としていきたい。

・ほしぞらスタッフ（ボランティア）による天文普及活動の支援

ほしぞらスタッフ（ボランティア）は、現在、市内外より 47 人の登録がある。観望会や各種イベントの企画・実施など幅広く活動していただいている。今後は、ボランティア自身を楽しめるような活動のあり方について検討していきたい。

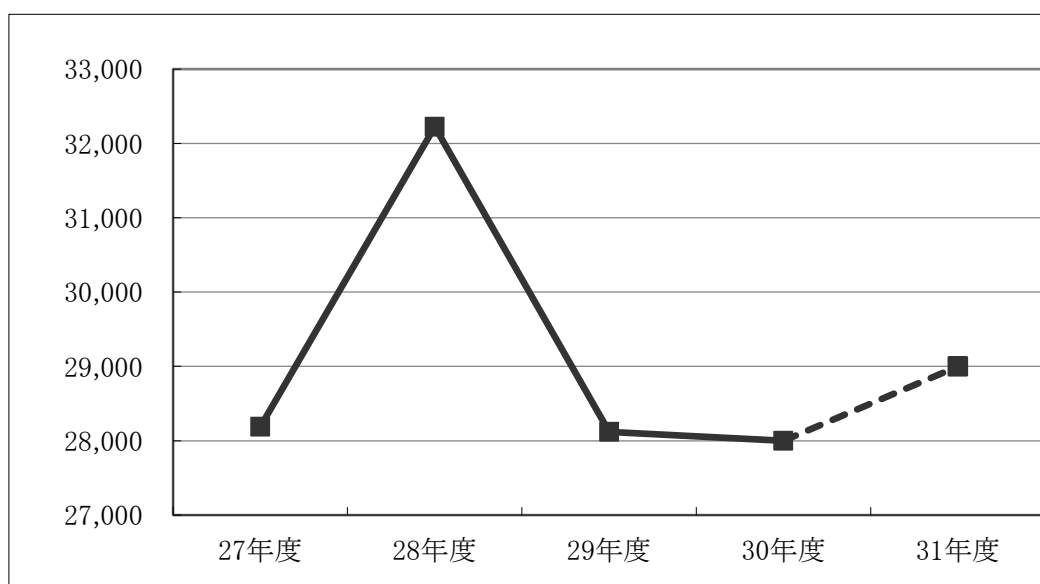
・広報活動の見直しと工夫

これまで学校団体や幼稚園・保育園へ案内送付を続け、団体利用の促進を行っている。さらに、市内小学校の利用者（児童）には招待券を配布し、その後の来場に繋げる工夫を行っている。また、個人来館者に対しては、アンケート回答者（5,500 件）への案内送付など、入場者数増に向けた広報活動を進めている。また、近年は Facebook や Twitter など、SNS の口コミを利用した広報も一定数の効果をあげていることから、こうした手法を適宜利用していきたい。

プラネタリウム入場者数の推移

※30年度は見込値、31年度は目標値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
入場者数	28,186	32,114	28,119	28,000	29,000
対前年比	92.9%	113.9%	87.6%	99.6%	103.6%
対前年人数	△ 2,159	3,928	△ 3,995	△ 119	1,000



⑦ 公3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」

アクアドーム

国や宗像市の健康・スポーツに関する計画等の趣旨・基本理念等と合致することを基本に、利用者の「総合的健康の維持向上」を行う。

(ア) 健康づくりに関する情報の収集・発信は、ホームページやアクアドーム新聞等の広報媒体によって実施。

- ・主な事業であるウエルネスクラブ・スイミングスクールや新たに取り組むサービス向上施策を、広報紙や新聞折り込みチラシを通して周知を図っていく。

- ・アクアドームで行われるイベント情報や健康情報を簡単にまとめた「月刊アクアドーム新聞」をコミュニティ・センターに配布する。

(イ) 特定保健指導や介護予防事業、スポーツ推進計画など宗像市の健康づくり事業を積極的に実施

特定保健指導の積極的支援、動機づけ支援、特定健診結果説明会での運動指導、特定保健指導対象者に指導参加を促す電話勧奨を行う。

- ・宗像市スポーツサポートセンターとの連携を強化する。

- ・要望に応じ、介護予防教室「わくわくクラブ」の増設を検討する。

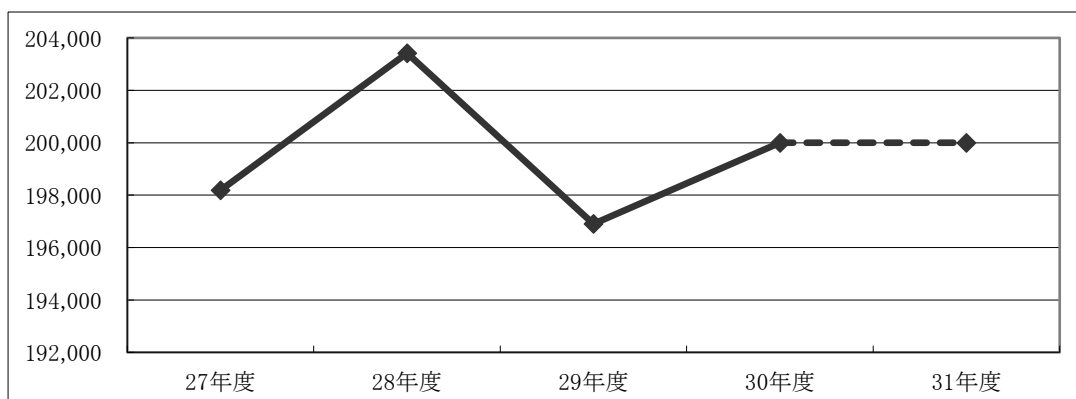
(ウ) シニアクラブ連合会と連携し、宗像市スポーツ推進計画に記載してある

- ・「ノルディックウォーキング」を広める活動の支援を行う。

アクアドーム入場者数の推移

※30年度は見込値、31年度は目標値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
入場者数	198,181	203,418	196,902	200,000	200,000
対前年比	99.0%	102.6%	96.8%	101.6%	100.0%



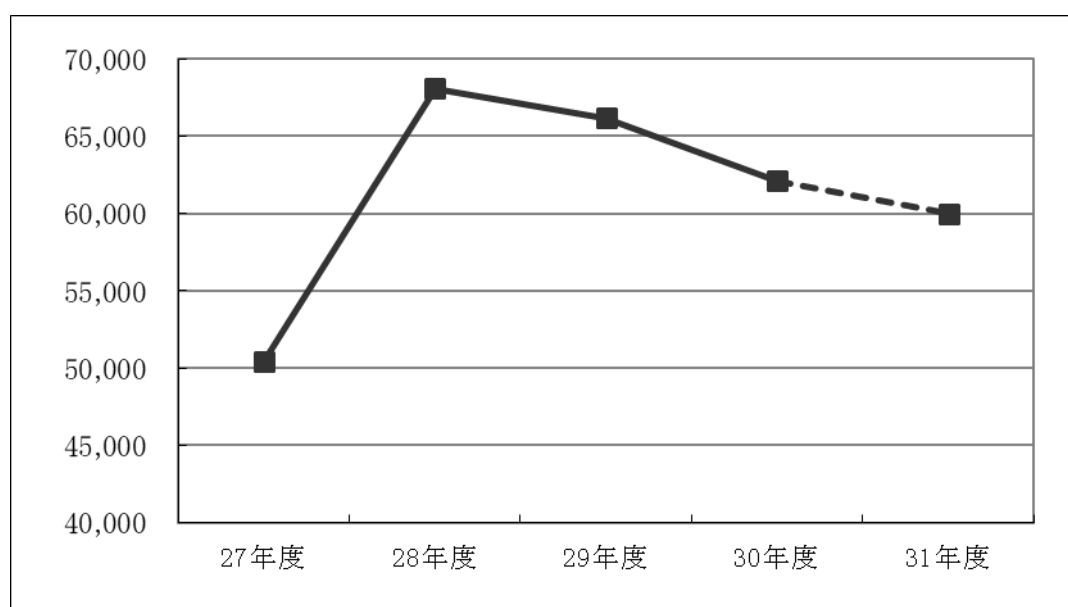


## ゆ〜ゆ〜プール

プールサイド等の利用環境が改善され、より快適なレジャープールとなった。これに併せ、幼児・小学生低学年が楽しく安全に遊べるサービスを実施していく。

ゆ〜ゆ〜プール利用者数の推移 ※30年度は見込値、31年度は目標値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
入場者数	50,405	68,089	66,159	62,091	60,000
対前年比	121.7%	135.1%	97.2%	93.9%	96.6%
対前年人数	8,975	17,684	△ 1,930	△ 4,068	△ 2,091



⑧ 公3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」

健康増進事業や様々なスポーツイベントを開催することにより、心身健やかな市民と活力のある地域づくりを目的とする。

- ・ 日常お店で購入し食べている食品を手作りする教室を開催。  
食育をベースに伝統知識の伝承や、健康づくり情報を提供する。  
管理栄養士により、この手作りした食品の栄養面に関するアドバイスをを行う。また、作業工程中や作業終了時に、運動指導員が健康づくりアドバイスやストレッチ等を行う。
- ・ スタジオレッスンは、平成31年度「にっこり文化講座」へ移行する。  
20分～30分のショートレッスンを廃止し、60分レッスンを主体としたレッスンを開催。一般利用者の獲得を目指す。にっこり文化講座への協力体制をとる。
- ・ ランニング初心者や愛好家を対象とした、ランニング練習会を実施  
年間10回を予定。「ユリックスサラダ」に情報を掲載し、アクアドーム利用者以外の受け入れも行う。10回の内1回は、ユリックス郊外へ出て20Kmチャレンジラン及び懇親会を実施予定。
- ・ スイミングスクール休止期間に、「水中運動教室」「初級水泳教室」開催  
7月8月の夏季に、1回ごとの参加費を支払って参加できる教室を実施する。
- ・ アクアビクスのイベントを開催  
普段水泳しかしていない利用者や、アクアビクスをしてみたい人を対象に実施する。  
スイミングスクールの全体の活性化を行う。
- ・ 一般利用者向けスイムビデオ撮影を実施  
ウエルネスクラブ会員のみでなく、スイミングスクール受講生や一般利用者向けにスイムビデオ撮影を行う。
- ・ 登山イベントを開催  
宗像市商工観光課が発行している「宗像・岡垣登山マップ」を活用した、登山イベントを行う。

- ・ノルディックウォーキングイベント  
宗像市のスポーツ推進計画で推奨されている、ノルディックウォークを実施。  
宗像市が発行している『宗像市ウォーキングマップ』を活用。
  
- ・スタジオBで陸上運動の「わくわくクラブ」を増設予定。
  
- ・栄養分析を新たに実施。  
簡易的により実践しやすいシステムで行う。アクアドームの特徴を出し、他施設との違いを出す。
  
- ・ウエルネスクラブ会員新設  
夜の利用者増、会員の幅を広げ、宗像市民により利用しやすい環境をつくる。
  
- ・ウエルネスクラブ会員限定で、スタジオA開放  
スタジオレッスンが行われていない時間帯は、ウエルネスクラブ会員限定で施設の使用を許可する。ストレッチスペース等の提供。ヨガなどのDVDをながし実践していただく。

⑨ 公3 「健康増進事業（テニスコート）」

・テニスコート

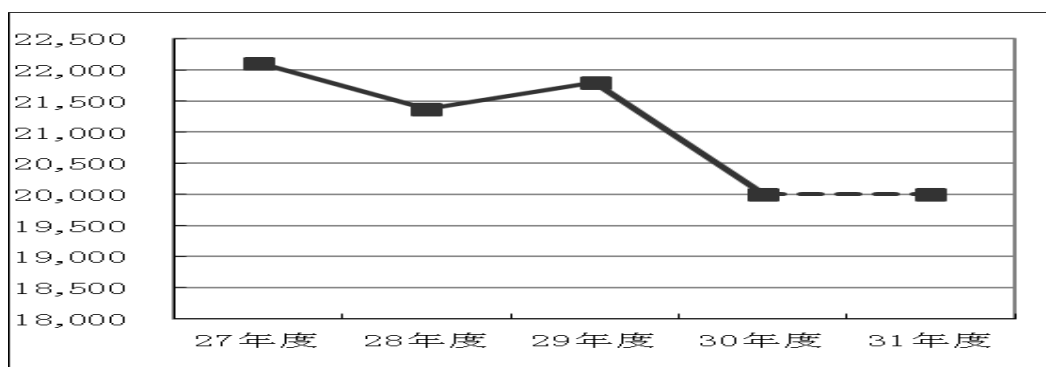
年間約 20,000 人が利用するテニスコートは経年劣化によるコートの傷みが目立つようになってきている。定期的なメンテナンスによって、ご利用のお客様が怪我をしないように維持管理を続けていく。

予約受付方法については、電話または来館受付のみとしているが、インターネットを利用した予約受付方法を検討し、より利用しやすく選ばれるテニスコートになるように進化させたい。

テニスコート利用者数の推移

※30年度は見込値、31年度は目標値

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
利用者数	22,107	21,372	21,797	20,000	20,000
対前年比	98.6%	96.7%	102%	91.8%	100.0%



### 3. 法人運営

#### ① 組織・運営体制

平成 30 年度より、にっこり文化講座の運営がスタートした。29 年度よりの周到な開設準備もあって、順調な講座運営がなされている。今後についても顧客の期待を上回る運営を目指して業務に取り組んでいく。そして、それを実現するために、より機能的な組織運営を目的とした機構の見直しを実施する。

また、社会環境の変化による雇用環境の悪化が顕著であり、人材の確保が困難な状況になっている。組織が期待する人材をつなぎとめるために、31 年 4 月より人件費単価の改定を行いたい。人材は組織にとって重要な資産であることから、人材の育成・確保を目的とした職員研修の充実などを図り、財団職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。

ユリックス職員数 (31.4.1 現在)

職 種	総務部	文化事業部	施設営業部	計
中 核	3	1	1	5
専 任	1	2	1	4
嘱 託	3	3	4	10
臨時A	5	1	10	16
臨時B	0	3	4	7
計	12	10	20	42

#### ② 財政運営

平成 30 年度は、電気料の契約形態の見直しで大幅なコストダウンが図れたことや、夏季の好天により、ゆーゆープールの利用者数も好調に推移したことで、安定的な財政運営を行うことができた。

また、新たにスタートしたにっこり文化講座についても、業務内容や人員配置の見直しを行ったことで、効率的な運営が図られた。

平成 31 年度は、人件費単価の改定を行うこともあり、事業収入の拡大や事業規模・内容の見直しに取り組み、財政安定化に向けた収支改善に取り組んでいく。

指定管理費の推移

予算ベース 年額	第一期 指定管理費	第二期 指定管理費	第三期 指定管理費	第四期 指定管理費
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	368,828,000	367,328,000
対前期増減額	—	△11,225,000	22,745,000	△1,500,000

